

第 37 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】(たけのこクラブ) 【名前】(米本美紀) 【立場】(保護者 or 指導員)

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第(5)分科会 名称(北欧の学童保育～学校との連携・指導員の身分保障)

※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。

②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

全体会では「思春期」についてのお話を聞くことができました。
一年生から見ているはずなのに、なぜか一定の年頃から「接し方の難しさ」に入る。
これが、思春期に入った子ども達なのかもしれないと思いました。
言葉数も減り、必要な時しか会話をしようとならないのが男の子。
大人びた言葉を使って、話したがるのが女の子。
無理して、接しようとする必要はない。近寄れば距離を置きたがる、これこそが「思春期」の行動なのかも知れません。

午後からの分科会は、北欧の学童保育。

日本も民主主義のはずなのに、働く人間の環境がとても保障されている事に驚きました。
働く人の身分保障だけではなく、子ども達にとっても環境が子ども第一に作られている施設にも驚きましたが、指導員は「子どもの意見を尊重する」という言葉が印象的でした。
やりたい事をやる。耳にするだけでは「わがまま」に聞こえる言葉ですが、無理をさせないという事なのかも知れません。

どうしても、「集団生活」なのだから皆と一緒にと言ってしまうのが日本の環境です。

子どもの意見を尊重しないといけない時、でも集団生活も大切にしなければいけない時、取捨選択で、私は子どもと向き合っていきたいと思いました。

北欧のお話は、魅力的でしたが、私はやはり「寄り添う保育」を目指しているので、休みが多い分子どもと寄り添う時間も短いということになるので、それはそれでつまらないなと思いました。

やはり、色んな意味で「日本の保育」も魅力的だと思いました。

※このレポートは、参加されたすべての保護者と指導員にご提出をお願いしています。

※文字数の制限はありません。この用紙に手書きでもかまいませんし、データでお送りいただいてもかまいません。

※×切は 3/22 (月) です。指導員に手渡し、または、こちらのアドレス okazakigakudou@yahoo.co.jp にお送りください。

※ご提出されたレポートは、当会のホームページや岡崎がくどうの会だより「よりどころ」に掲載する予定です。